

●なでしこふぁみりー 五周年を迎える

十月一六日、佐藤商事会議室にて五周年記念会を行いました。これまで暖かく見守り戴いた会員の皆様及び関係社各位に心より御礼を申し上げます。



石垣島は、昔からヒマシ油をとるヒマ植物も自生している程で南洋アブラギリには最適地。離島の将来のエネルギー確保に向けて第一歩を踏み出した。うるま市では、昨年九月よりジャトロファを栽培開始、関係者一同にて実験圃場を見学した。既に結実して取れた種子から苗の栽培、母木からの挿し木の栽培、剪定の仕方による分枝の研究と、実証が進んでいる。



●ジャトロファ燃料に よる島おこし

の栽培拡大をめざす。収穫方法等解決しなければ成らない問題が残っているが、一つ一つ実験しながら、地産地消エネルギーと地域振興への活力源にしようと、地元推進派は燃えていた。

燃料は、八月に埼玉の企業（協議会会員）の協力を得て、ジャトロファ油五〇%と軽油五〇%を混合し、アंकス社製のエコプロにて改質したものの。この実用化テストは、約



九月二五日八丈島八重根漁港にて、八丈町議会と地元企業の協力の下、ジャトロファ燃料の漁船走行テストを行った。

一時間同島近海を走行、販売総代理店の佐藤商事の関係者及び神戸大学の橋本正孝教授も参加。従来の軽油走行と航行時のエンジン回転、排ガス状況を比べ遜色ないことを確認した。



●非食用植物油協議会 総会開催

十月一六日、佐藤商事会議室にて、NEDO担当官も出席して、栽培セミナー並びに協議会総会を開催した。



●八丈島委員会開催

十月一七日、浅草のホテル会議室にて、経済産業省・平成21年度バイオマス等未活用事業調査の委員会が開催され、経済産業省担当官参席のもと中間報告を行なった。



町議会議員山下氏は、遊休地対策と燃料油の一部自給を

目指し、ジャトロファ油の可能性に自信を深めたと談話。

今後、地元協議会は、残った混合油を使って、重機や農機に実証を重ねる予定。